

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却方法

建物については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用している。

看護専門学校所属資産については定額法を採用している。

それ以外の有形固定資産については定率法を、ソフトウェアについては利用期間に基づく定額法を採用している。

(2) 引当金の計業基準

退職給付引当金

職員・役員の退職金の支給に備えるため期末要支給額を基準とし計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理によっている。

3. 会計方針の変更

該当なし

4. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
建物	191,401,370	0	5,221,041	186,180,329
建物附属設備	33,424,716	0	4,889,379	28,535,337
構築物	6,330,347	0	948,313	5,382,034
退職給付積立金(退職積立金)	121,333,318	15,780,434	3,582,027	133,531,725
慶弔見舞積立金	12,752,983	1,025,424	373,470	13,404,937
建物修理積立金	60,172,874	5,082,841	0	65,255,715
合計	425,415,608	21,888,699	15,014,230	432,290,077

5. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
建物	186,180,329	(84,805,339)		
建物附属設備	28,535,337	(12,997,878)		
構築物	5,382,034	(2,451,518)		
退職給付積立金(退職積立金)	133,531,725			(133,531,725)
慶弔見舞積立金	13,404,937		(13,404,937)	
建物修理積立金	65,255,715		(65,255,715)	
合計	432,290,077	(100,254,735)	(78,660,652)	(133,531,725)

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	234,085,440	47,905,111	186,180,329
建物附属設備	73,762,091	45,226,754	28,535,337
構築物	14,153,929	8,771,895	5,382,034
小 計	322,001,460	101,903,760	220,097,700
その他固定資産			
建 物	469,387,284	273,761,451	195,625,833
建物附属設備	59,476,259	50,978,890	8,497,369
構築物	4,154,500	2,468,935	1,685,565
車両運搬具	21,377,071	18,346,267	3,030,804
什器備品	48,474,720	47,829,631	645,089
ソフトウェア	3,510,200	2,568,828	941,372
小計	606,380,034	395,954,002	210,426,032
合 計	928,381,494	497,857,762	430,523,732

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	5,037,264
合 計	5,037,264